

# 名画鑑賞会

会場  
多目的ホール

1回 500円

大江戸五人男

今観たい！  
時代劇の真髄

銭形平次捕物控  
人肌蜘蛛

料金

1回券 500円  
1日券 1,000円

平成28年度優秀映画鑑賞推進事業

## 時代劇 名作特集

日時

平成28年

10/7(金)・8(土)

10/7 (金)  
① 13:00~ 旗本退屈男  
② 15:30~ 赤穂浪士  
③ 18:30~ 銭形平次捕物控

10/8 (土)  
① 10:30~ 銭形平次捕物控  
② 13:00~ 赤穂浪士  
③ 16:00~ 大江戸五人男

※開場は各上映時間の20分前  
※完全入れ替え制

旗本退屈男

チケット発売日:  
9月1日(木) 10:00~  
■プレイガイド  
フジグラン岩国  
ローソンチケット(Lコード 61936)  
チケットぴあ(Pコード 555-967)

赤穂浪士

主催:シンフォニア岩国 指定管理者サントリーパブリシティサービスグループ/文化庁/東京国立近代美術館フィルムセンター ■協賛:松竹ブロードキャスティング株式会社 ■協力:株式会社オーエムシー

...日時...

10/1(土)

①11:00~ ②16:00~  
開場は各上映時間の30分前

# 25年目の 弦楽四重奏

A LATE QUARTET

...料金...

500円

※未就学児は入場不可  
※日本語字幕

チケット発売日:  
9月1日(木) 10:00~  
■プレイガイド  
ローソンチケット  
(Lコード 61955)  
チケットぴあ  
(Pコード555-990)

...特典...  
10/23(日)  
前橋汀子  
カルテット公演  
鑑賞割引券  
を進呈

ベートーヴェンの名曲、弦楽四重奏第14番にのせて奏でる珠玉のアンサンブルドラマ

■主催:シンフォニア岩国 指定管理者サントリーパブリシティサービスグループ

フェイスブック  
はじめました!



# 大江戸五人男

(白黒 スタANDARD 132分)  
[1951年 松竹(京都)]

## スタッフ

構成……………火口会同人  
脚本……………八尋不二  
……………柳川真一  
……………依田義賢  
監督……………伊藤大輔  
撮影……………石本秀雄  
照明……………寺田茂雄  
録音……………福安雅春  
音楽……………深井史郎  
美術……………角井平吉

## 出演者

幡随院長兵衛……………阪東妻三郎  
水野十郎左衛門……………市川右太衛門  
長兵衛女房 お兼……………山田五十鈴  
腰元 おきぬ……………高峰三枝子  
魚屋 宗五郎……………月形龍之介  
白井権八……………高橋貞二  
高見沢備中守……………高田浩吉  
小紫……………花柳小菊  
近藤登之助……………三島雅夫  
仏の小平……………三井弘次  
石谷将監……………大友柳太郎

## 解説

松竹30周年記念映画として、時代劇、現代劇、歌舞伎などの松竹スターを総動員して製作された大作。構成の火口会は「書こうかい」の意味で、京都在住のシナリオ作家、八尋不二、依田義賢、柳川真一らの集まりである。物語は「極付幡随院長兵衛」(河竹黙阿弥)と「番町血屋敷」(岡本綺堂)を巧みに織りこんでいるが、一番の呼びものは、戦前からの時代劇スター、阪東妻三郎(幡随院長兵衛役)と市川右太衛門(水野十郎左衛門役)の対立、葛藤であろう。町奴の飯妻と旗本の右太衛門、町人の意地と武士の体面のぶつかりあい、それぞれの見世場を十分に用意し、また魚屋宗五郎(月形龍之介)、白井権八(高橋貞二)、小紫(花柳小菊)など歌舞伎や時代劇映画ではお馴染みの人物たちを配して、興趣満点の物語を悠々たる演出でまとめているのは巨匠伊藤大輔である。火口会への脚本料が100万円で、使いきれなかったとは依田義賢のことばである。この年の配給収入第2位作品。

# 時代劇 名作特集

平成28年度優秀映画賞推薦事業

# 旗本退屈男

(カラー シネマスコープ 108分)  
[1958年 東映(京都)]

## スタッフ

原作……………佐々木味津三  
脚色……………比佐芳武  
監督……………松田定次  
撮影……………川崎新太郎  
音楽……………深井史郎  
美術……………川島泰三

## 出演者

早乙女主水之介……………市川右太衛門  
妹 菊路……………桜町弘子  
伊達忠宗……………片岡千恵蔵  
松崎文之進……………大河内伝次郎  
角倉十太夫……………月形龍之介  
甲賀三郎兵衛……………大友柳太郎  
揚羽の蝶次……………中村錦之助  
百々地三之丞……………東千代之介  
美濃部新兵衛……………大川橋蔵  
秋篠平八……………里見浩太郎  
桜内数馬……………北大路欣也

## 解説

時代劇の大スター、市川右太衛門の「映画出演300本記念」として製作された東映オールスター映画。彼自身が設立した「右太衛門プロ」で初めてこの「旗本退屈男」(古海卓二監督)を映画化したのは1930年のことである。主演俳優とともに息の長いシリーズものになり、その総数は戦前戦後を合わせて31本に達している。戦後のシリーズ再開は1950年。占領軍による時代劇の製作規制が緩和され、1951年に現在の東映が発足。右太衛門は、両雄と呼ばれた片岡千恵蔵とともに戦後時代劇隆盛の一翼を担っていく。豪華な衣装を身にまとい、天下御免の眉間の「三日月傷」と剣法「諸羽流青眼崩し」を駆使して胸のすく活躍をみせる。「天下の直参、早乙女主水之介(もんのすけ)」は、右太衛門のほまり役として知られるばかりではなく、世間にはびこる悪を痛快に解決するヒーローとして広く長く大衆に支持された。

# 銭形平次捕物控 人肌蜘蛛

(カラー スタANDARD 82分) [1956年 大映(京都)]

## スタッフ

原作……………野村胡堂  
脚本……………小国英雄  
監督……………森一生  
撮影……………杉山公平  
照明……………伊藤貞一  
録音……………大谷蔵  
音楽……………斎藤一郎  
美術……………西岡善信

## 出演者

銭形平次……………長谷川一夫  
お品……………山本富士子  
新次郎……………市川雷蔵  
笹野新三郎……………黒川弥太郎  
新吉……………夏目俊二  
八五郎……………堺駿二  
お千代……………中村玉緒  
おれん……………入江たか子  
三輪の万七……………見明凡太郎  
尾張屋伝右了門……………東野英治郎  
上総屋……………沢村宗之助

## 解説

<捕物帳小説>の始まりは、1917年に岡本綺堂が発表した「半七もの」からだと言われている。その中でも代表的な野村胡堂の「銭形平次捕物控」は、1931年に登場し、57年に完結するまでに長短あわせて383篇も書きつづけられた人気小説である。この種の大衆的な時代小説は、時代劇映画の格好の素材でもあり「伝七」「佐七」「むつり右門」「連山の金さん」「若様侍」など数多くのスクリーンのヒーローを生み出した。1920年代からの大スター長谷川一夫の当り役でもあるこのシリーズは、49年の『平次八百八丁』から61年までに18本が作られ、女房や八五郎役はその時代の人気女優と喜劇人によって演じられた。

# 赤穂浪士

(カラー シネマスコープ 150分)  
[1961年 東映(京都)]

## スタッフ

原作……………大佛次郎  
脚色……………小国英雄  
監督……………松田定次  
製作……………大川博  
撮影……………川崎新太郎  
照明……………山根秀一  
録音……………東城絹児郎  
音楽……………富永三郎  
美術……………川島泰三

## 出演者

大石内蔵助……………片岡千恵蔵  
脇坂淡路守……………中村錦之助  
堀部安兵衛……………東千代之介  
浅野内匠頭……………大川橋蔵  
上杉綱憲……………里見浩太郎  
柳沢出羽守……………柳永二郎  
立花左近……………大河内伝次郎  
清水一角……………近衛十四郎  
堀田隼人……………大友柳太郎  
吉良上野介……………月形龍之介  
千坂兵部……………市川右太衛門

「忠臣蔵」あるいは「赤穂浪士」は、時代劇映画の中でも特別の位置を占めている。初めて映画となったのは、一説によれば1907(明治40)年12月に公開された「忠臣蔵五段目」、十一代目片岡千右衛門の襲名を記念して撮影されたものようである。これ以降、1994年の『四十七人の刺客』(市川崑監督)と「忠臣蔵外伝 四谷怪談」(深作欣二監督)まで膨大な数の「忠臣蔵」が作られてきた。映画製作会社にとっても、「忠臣蔵」はその発展ぶりを示す格好の題材であった。歌舞伎の「仮名手本忠臣蔵」をもとに、講談における義士銘々伝、浪曲における本伝、外伝など長い大衆芸能の伝統の中で、場面場面は洗練されており、個々の役柄に芝居の見せ場が用意されているからである。この『赤穂浪士』は、両御大と呼ばれた片岡千恵蔵、市川右太衛門、さらに大河内伝次郎、月形龍之介といった戦前からの時代劇スターに、登り坂の若手俳優を配して製作された東映の創立10周年記念映画である。

チェリストが突然の引退宣言。  
狂い始めた完璧な四角に、  
最終楽章の幕は上がるのか。

# 25年目の 弦楽四重奏

A LATE QUARTET

出演：フィリップ・シーモア・ホフマン  
マーク・イヴァニール  
キャサリン・キーナー  
クリストファー・ウォーケン  
監督・脚本：ヤロン・ジルバーマン  
[2012年・アメリカ(106分)]



フーガ弦楽四重奏団結成25周年前夜。

チェリストの突然の引退宣言から、ドラマは始まった。

冷徹なまでに正確な演奏で客を魅了する第1バイオリンのダニエル、色彩と質感を与える第2バイオリンのロバート、深みを添えるピオラのレイチェル、そして、チェロのピーターが完璧な四角を支えている。

ある日、チェリストのピーターがパーキンソン病の告知を受ける。

今季をもって引退したいと申し出るピーターに、残されたメンバーは動揺を隠せない。

憤り、嫉妬、ライバル意識、家庭の不仲、不倫。それまで抑えてきた感情や葛藤が露呈し、不協和音が響きはじめる。

バラバラにくずれ始めた“四角(カルテット)”に最終楽章の幕は上がるのか。